

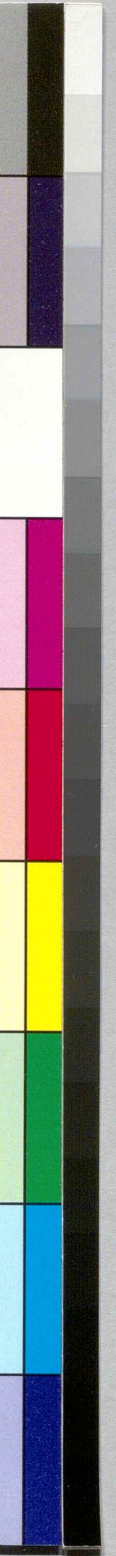
一般教育総合コース

ギリシア・ローマ文化

1962年度



お茶の水女子大学



プロローグ 学習上の手引

1. 一般教育と総合コース

一般教育の目的は、将来専門科学の学習に進むべき諸君の系統的知識の把握、事実と理論の関連の解明、思考力と鑑賞力の涵養、社会的判断力の養成に資し、将来各自の専門分野を超えた市民としての責任を果たす能力を育成せしめるにある。

そのためには、教授も学生も共に一般教育の課題と方法について十分な考慮を払わなければならない。人文・社会・自然科学の三系列に岐れ、さらに各系列毎に専門分化が行われている現在の一般教育は、諸君が自己の専門とすべき科目以外のものを学習しようという便益があり、また将来の専門学科の基礎学として役立つ効果がある。しかし、その向綜合性が欠如している感がある。そこで、31年度から、ここに一案として、人文・社会を主とし、自然科学をも加えて、一般教育「総合コース」を試みようとする。

一般教育の目的に鑑み、その総合性を確保しうる課程としては人類の形成した偉大な文化、例えば、ギリシア・ローマ文化、近代文化及び現代世界、東西文化の比較、現代社会における人間の諸問題、等が考えられる。31年度は、最初の試みとして、「ギリシア・ローマ文明」を取り上げた。32年度は「近代社会と人間」、33年度は「現代社会の動向と人間関係」、34年度は、コースをA、Bに分け、「現代における自由と進歩」を課題とした。(A=オ一年生向、B=オ二年生向)

35年度はAコースにおいて「東と西」、Bコースにおいて前年度に引きつづき「現代における自由と進歩」を課題とし、36年度は「東と西」(ただしオ二年生向)のみを課題とした。

2. ギリシア・ローマ文化

この総合コースは、人間の創造した哲学、芸術、科学、社会、経済および国家を理解することによって人間の研究に資しようとするものである。その目的は諸君をして一般的には人間を特殊的には諸君自らを理解し、評価しようようにすることにある。その理解の鍵の一つは、人類の偉大な遺産として、また西洋文化の源流として高く評価されているギリシア・ローマ文化の中に見出される。

ギリシア・ローマ文化は、ヘブライ・キリスト教文化と共に、西洋文化の二大源流の一つであり、いまなおその価値が高く評価されている。この文化についてその特徴と業績とを諸君自らが探究し、発見することは、単に諸君の人間の教養に資するに足るのみでなく、諸君の専門的研究の論理的な出発点でもある。ギリシア・ローマ文化に内在している文化創造と社会形成のオー原理を理解することは、たまたま現代世界に於するわれわれの価値判断の基準としても大いに役立つであろう。

キリスト以前1千年の時代に、既に、ギリシアの諸都市においては、現代のわれわれが歩み、また歩まんとしている理性と自由と自治精神の上に築かれた生活の仕方が形成されたのであり、また、現代のわれわれが経験しつつある戦争と革命、階級または党派の斗争、さらに世界的に拡大しゆく文化形式や、社会的経済的条件や、異質文化の融合過程等は決して新しい現象ではなく、既にギリシア・ローマ文化の矛盾として経験されたところである。この人間の Paradoksus と格闘せしむべくギリシア人の心を刺戟したさまざまの歴史的事象こそ、この多彩にしてしかも統一ある古典的文化の源泉であり、しかも、われわれ現代人の身近かな肉類なのである。

3. 総合コースの内容と方法

この総合コースは、我が国はじめての試みでもある。事情の許す限り、課題の分担について総合性を發揮しようように考慮した。時間も合計60時間を適当に配当し、教材・参考書及び聴視覚資料等について、極力諸君の便宜を企りたい考である。

目次

プロローグ 学習上の手引 1

オ一 ギリシアとローマの自然的基盤と
ギリシア地理学.....渡 辺 光 5

オ二 歴 史尾 鋤 輝 彦 8

オ三 宗 教藤 田 健 治 9

オ四 哲 学藤 井 義 夫 11

オ五 文 学呉 茂 一 12

オ六 文芸批評鋳 島 能 弘 15

オ七 美 術沢 柳 大 五 郎 17

オ八 ギリシア人の心性波 多 野 完 治 21

オ九 政 治蠟 山 政 道 22

オ十 社会至済蠟 山 政 道 24

オ十一 科学と技術菅 井 準 一 26

オ十二 数 学守 屋 美 賀 雄 27

附 ギリシア史年表

課題項目と担当者

○オ一 ギリシアとローマの自然的基盤とギリシア地理学
渡 辺 光

- A. ギリシアとローマの自然的基盤
1. 地中海を中心とする古代文化圏
ギリシア圏 = *Greek Settlements* とアレキサンダー大帝の帝国の範囲 *Hellenism* 世界。
ローマ圏 = *Italia* と *Pan Romana* の範囲。
いずれも地中海 *Mare Internum* を中心とする。この海の交通地理的意義。
 2. 気 候 *Mediterranean climate* (*Etesian cl.*, *Olive cl.* 等の別名), 西欧人のいわゆる *Subtropical climate*。
 3. 生 業
冬小麦。地中海性果実(オリーブ, ナドウ, イチジク等。後に柑橘, これらの組合せ)。羊・山羊の *Transhumance*。
 4. 地 形 *Tethys* 造山帯の一部 = ヨーロッパの南方に突出する三大半島中の東の二つ。
a. *Balkan* 先ず東方に *Hellenism* 世界を形成。
b. *Italy* つぎに地中海中心の帝国を形成。
c. *Iberia* 後に *New World Revolution* の先駆者となる。

ギリシア

- a) *Pindus - Peloponnesos - Crete - Rhodos - Taurus*
- b) *Rodope - Aegean Sea* の島々 - *Asia Minor* の中央部。南部の *Submergence, Indentation* に富む海岸線と小弧を平野の形成。

ローマの中心イタリア

- a) 北部 Alps
 - b) 外帯 Po Valley — Adriatic sea — Apulia — Calabria
 - c) 中帯 Apennines — Sicily 西部 — Atlas
 - d) 内帯 Arno — Tiber 内面 — Latium — Campania
- 火山帯を伴う。

B. ギリシア地理学、地理学の発祥 — 二つの流れ、

1) Geographia (先ず Miletus の学者から)

- △ Thales 624 ~ 545 B.C.
- △ Anaximandros 611 ~ 545 B.C.
- △ Pythagoras 592 ~ 500 B.C.
(地球の Sphericity を想定)
- △ Platon 427 ~ 347 B.C.
(Sphericity 及び気候帯の記述)
- △ Aristoteles 384 ~ 322 B.C.
- △ Heraclides 388 ~ 315 B.C.
- △ Parmenides 515 ~ 450 B.C.
- △ Hippocrates 460 ~ 377 B.C. 頃
- △ Aristarchus 270 B.C. 頃. 太陽中心説

2) Chorographia

(Peridos, Periodos 等として)

- △ Homeros
- △ Hecataeus 550 ~ 475 B.C. 頃
- △ Herodotus 484 ~ 425 B.C. 頃

Alexander の遠征による地威知識の拡大。

3) 二つの流れの一元化, ヘレニズム世界形成吸収。

- △ Eratosthenes 273 ~ 192 B.C. 頃

両者の流れを一元化しギリシア地理学を完成。
地球の大きさ測定と Geographika 三巻の著。

(爾後ローマ初期の地理学)

- △ Hipparchus 190 ~ 125 B.C. (Klimata)
 - △ Crates 150 B.C. 頃 (地球儀)
 - △ Posidonius 135 ~ 50 B.C. 頃. (エラトステネスと同型の学者)
 - △ Strabon 68 B.C. ~ 20 A.D. 頃
Geographika 17巻完成. Chorographia に傾く.
 - △ Plinius 23 ~ 79 A.D. (むしろ Natural Historian)
 - △ Ptolemaeus ギリシア地理学最後の人。後代に与えた影響大。
- 4) ギリシア地理学の評価
(A. Hettner による)

○才二 歴史

尾 鍋 輝 彦

1. ギリシア史の特色

- ギリシアにすぐれた文化の生れた原因
- ギリシア史とローマ史の比較
- ヨーロッパ古代と東洋古代の比較
- ヨーロッパ古典古代特に古代ギリシアの歴史的位置

2. ギリシアの歴史思想

- ヘロドトス
- トゥキディデス
- ポリビオス

(参考書)

・村川堅太郎	ギリシア研究入門	北隆館
	世界歴史事典特に史料篇西洋 I, II	平凡社
・村川堅太郎	地中海からの手紙	毎日新聞社
	地中海の史蹟めぐり	(岩波写真文庫)
・高津春繁	アテナイ人の生活 (アテネ文庫)	弘文堂
・ブルクハルト	ギリシア文化史 6巻	東京堂
新聞良三訳		
・F. Schachermeyr	<i>Griechische Geschichte</i>	
・D. Taylor	<i>Ancient Greece</i>	
・	<i>Grosser Historischer Weltatlas, I Teil</i>	

○才三 宗教

藤 田 健 治

1. ギリシア宗教の原始形態——神々の誕生

- a. 名もなき神——宗教的畏怖の感情と呪術の様式
(豊饒の儀式と鎮めの儀式)
- b. 異体の神——聖獣と獣神
- c. 人格神への移行形態——聖獣の皮を被る呪術者(肉となれる呪力)——呪力と現実的人間との分離及び呪力の超越化。
- d. 集田欲望の投影と擬人化(大地の豊饒と種族の繁栄)——
母なる大地—^{エレ}乙女と^{クワロス}若者—^{ダイオン}春のドロメノン—年の神
- e. 禁忌—清祓—人身御供—善きものと古きもの
(テミスとアレスピストン)——古き常の道—祖妣

2. 古典時代のギリシア宗教——オリュムポスの神々の信仰

- a. 原始的蒙昧よりの離脱——ホメロスとハシオドス——作為と不作為。
- b. 宗教改革——ヘレニズムのバアバリズムに対する、人間の禽獣に対する勝利——ヒューマニズム
- c. 古典時代の宗教の企図したもの
 - 1) 倫理的浄化
 - 2) 神的世界の統一
 - 3) 都市国家の精神的鞅帯
- d. その企図の成功と失敗

3. ヘレニズム時代のギリシア宗教

- a. 運命神(テュケ、フォルテユナ)の信仰——運命の必然性と偶然性。
- b. 天体神——ミトラスとヘルメス——七惑星の信仰——星占術

— 秘儀, エクスタシスとエントウシアスモス
C. 神人 — 人間的な神化礼拝 — アレクサンドロス

(参考書)

- J. Harrison; *Prolegomena to the Study of Greek Religion*
• " ; *Ancient Art and Ritual*
(Home University Library)
邦訳 古代芸術と祭式 (佐々木理訳) 創元社
- J. Murray; *Five Stages of Greek Religion*
邦訳 ギリシア宗教発展の五段階 (藤田健治訳) 岩波文庫
- Nilsson ; *Geschichte der Griechischen Religion, 2 Bde*
- Wilamowitz-Moellendorf ; *Der Glaube des Hellenen, 2 Bde*
- 原 随田 ギリシア史研究 創元社
- 高津春繁訳 アポロドーロス ギリシア神話 生活社
- 田中秀次訳 タッカー 古代アテナイ人の生活 全国書房
- 古野清人訳 デュルケイム 宗教生活の原形 岩波文庫
- 永橋卓介 フレーザー 金枝篇 新書社
- 吳 茂一 ギリシア神話 新書社

○オ四 哲 学

藤 井 義 夫

- 序論 ギリシア的思惟の特質
- オ1章 初期ギリシアの自然哲学
 1. ギリシア人の自然観
 2. 質料と形相
 3. 運動の原理
- オ2章 学としての哲学の成立
 1. 自然と人間 — 価値の轉換
 2. ソフィスト運動とソクラテス
 3. プラトンとアリストテレス
- オ3章 ハレニズムの哲学とその終末
 1. ポリスの崩潰とコスモポリスの意識
 2. エピクロス主義とストア主義
 3. プロチノスの哲学とキリスト教
- 結論 ギリシア哲学研究の現代的意義

(参考書)

- Werner Jaeger ; *Paideia - Die Formung der griechischen menschen 1934-1947. (Bde III)*
- George Thomson ; *Studies in ancient Greek Society 1949-1955 (Vols III)*
(現代における代表的なギリシア研究と我々の立場)
- ツエラー 著 大谷長 訳 ギリシア哲学史
- バーネット 著 出 隆・宮崎幸三 訳 プラトン哲学
- バーネット 著 神沢惣一郎 訳 ギリシア哲学
- 山内得立 著 ギリシア哲学
- 田中美知太郎 著 ロゴスとイデア
- 藤井義夫 著 哲学の誕生

○才五 文学

吳 茂 一

ギリシア文学は、西洋文学の源泉であるが、同時にそれ自体の価値において卓越したものを有する。それはギリシア民族が、その新鮮な感受性、想像力、構想力を、一言にしてつくれば創造力を、言語を媒介とする芸術において、最高度に顕現させることができたからである。

それはまず敘事詩文学として（これは口誦詩としての特質を多分に分有する）、について抒情詩合唱詩として表現された。この文学の社会性は、演劇において絶頂に達する。同時に散文の発展は、歴史・哲学、弁論等の隆盛を来した。小説の発生ははるかに遅れる。

ローマ文学はまずギリシア文化の影響下にある地中海をその一部として発展、その中にも独自の性格を保ちつつける。形式的にはギリシアの影響が著しく、その後塵を拝するかに見えるが、抒情詩やことに諷刺詩に特異な強味を發揮する。敘事詩文学においても、ギリシアとは違った粘り強さ、強靱さを示している。散文ではキケロ・セネカなど後世に大きな力を及ぼすほか、自然主義、写実性に特色ある二つの優れた小説など、また独特な力強さをもっている。ローマ時代のギリシア文学も、極めて豊富、多方面にわたっている。それは多くの都市の有産階級を支柱とした古典古代文化の所産である。

1. 西洋古典文学の特質

時代的区分、傾向、古典文学研究の経緯

ホメーロスにおける神と人間

ギリシアの敘事詩の展開

ホメーロスの諸肉観

神観と人間観、人生観

2. ギリシア古詩と近代詩

詩と創造

敘事詩、教訓詩、抒情詩

ハーシオドス、ソローン、テオグニス

サッポー、アナクレオン、ピニダロス

シモーニデースとギリシア的知性

詩における情熱と教訓

3. ギリシア悲劇について

演劇の萌芽と発展

ディオニューソスとアポローン

運命劇説

演劇論、劇のカタルシスについて

4. アリストパネースの笑い

ギリシア喜劇の発展と展開

アッティカ古喜劇の特性

アリストパネースとメナンドロス

ギリシア喜劇の影響、シェクスピア、モリエール

5. 古典散文と文学論

ギリシア散文の発達

プラトンとイソクラテース

ローマ散文、キケロ、セネカ

歴史家たち。

(参考書)

・ギリシア文学史 田中秀央・黒田正利著 昭14 刀江書店
作者や事項にはまず詳しい

・古代ギリシヤ文学史 高津春繁著 昭27 岩波全書
現在日本で出たものでは一番信用される。ことに文献学的である。

- 古代ギリシア文学史(上) 高津春繁著 昭24. 要書房
上記の多少くわしいもの、但し(上)のみ
- 世界文学史概説 古代：中世 吳茂一著 昭25. 角川書店
岩波文学講座と訂正したもの、要項について記す。
- ギリシア・ローマ文学 吳茂一著 昭24. 思索社
古世文学の若干の題目(七項)について述べたもの
ホメーロス、小説、詩学、Vergil、ローマ思想など
- ローマ文学史 岩崎良三著 昭17. 青木書店
W. Duff のローマ文学史の訳を多少敷衍したもの、引例が
多く興味本位に近い。
- ラテン文学史 田中秀央著 昭18. 生活社
作者や事項にはわりに詳しい。

外国書は手頃なものに、三に止める(英語のみ)

- *A History of Ancient Greek Literature.* G. Murray
1927. Appleton
- " *C. M. Bowra Home Univ. Lib. Oxford U.P.*
- *A History of Greek Literature.* M. Hadas 1950. Columbia U.P.
- *A History of Latin Literature.* M. Hadas 1952. Columbia U.P.

○才六 文芸批評

鍋島能弘

文芸批評の領域では、いつもアリストテレスをオナーに挙げ、そして彼の「詩学」を中心として、詩や劇に関する彼の真諦を研究することが多い。実際、ヨーロッパの文芸批評ばかりでなく、一般に芸術論も美学も、アリストテレスの「詩学」から発展したとも云われるほどである。勿論、それ以前に、ギリシア初期の批評とか、アリストパネス、プラトンなどの詩論もあったことを述べておかなければならないし、またアリストテレス以後に、いわゆるグレコ・ローマン時代の詩論、さらに重要なものとして、ロンギノスの文体論もあったことを忘れてはならない。したがって、こういう文学史にも触れながら、本論ではアリストテレスの「詩学」の分析と、それに含まれた詩論と、さらには一般の芸術論を取り扱うことになる。そしてそれが、ヨーロッパの批評に及ぼした一般的な影響も、批評史として、いささか述べておくのである。

(主たる参考文献)

1. S. H. Butcher; *The Poetics of Aristotle* (Edited with critical notes and a translation), 1922. Macmillan.
2. Aristotle; *The Poetics*, 'Longinus' *On the Sublime*, Demetrius; *On Style*. (Loeb Classical Library)
3. Aristotle; *The Poetics*, Longinus; *On the Sublime*
(テキストだけは *Oxford Classical Texts*: Oxford Clarendon Press から出版)
4. 翻訳 アリストテレス「詩学」(松浦嘉一訳)岩波。
5. E. E. Sikes; *The Greek View of Poetry*, Methuen, London. 1931

6. J. W. H. Atkins: *Literary Criticism in Antiquity*.
vol. 1. Greek. vol. 2. Graeco-Roman, Cambridge Univ.
Press. 1934.
7. 竹内敏雄: 「アリストテレスの芸術理論」 弘文堂 1959.
8. J. W. Mackail: *Lectures on Greek Poetry*. Longmans etc.
1926.
9. B. Bosanquet: *A History of Aesthetic*. London,
Macmillam, 1892. (井上・鍋島共訳「美学通史」雄山閣)
10. T. A. Sinclair: *A History of Classical Greek Literature*
(From Homer to Aristotle), London George Routledge etc.
1934.
11. F. A. Wright: *A History of Later Greek Literature*.
London, George Routledge etc. 1934.
12. 田中・黒田: 「ギリシア文学史」 刀江書院 1942.
13. Werner P. Friederich: *Outline of Comparative*
Literature. The Univ. of North Carolina, Chapel Hill,
1954.
14. Calvin B. Brown (edit): *The Reader's Companion*
to World Literature. (A Mentor Book) 1956.
15. S. H. Butcher: *The Originality of Greece*. Macmillam,
1904. (「ギリシア文化の特質」西角克夫訳. 筑摩書房, 1942)

〇才七 美術

沢柳大五郎

本講は時向の關係上、史時代のギリシアに限る(所謂 Kreta = Mykenai 美術は割愛)。ここに記すのは講義の概要でなく、むしろ講義で省略される基礎的な事項である。

Gr. 人は、立派な建築(—神殿)、絵画(—壁画、蠟画、等があったが遺品は陶器画のみ。参考 Pompej 壁画)を作ったが、Gr. 人の造形的天才、のみならず Gr. 人の性格、世界観を最もよく発揮したのは彫刻である。よって、本講では彫刻を主とする。

- 1) 対象——神々、英雄(半神)、人間、動物。
- 2) 用途——神殿裝飾(破瓦、フリーズ、メトープ)、墳墓彫刻(独立人像、墓碑、石棺)、祭神、奉納像(神々、英雄、奇進者)記念碑(競技優勝記念等)、肖像(古典後期以後)
- 3) 材料——木(遺品なし)、銅、石(Poros—石灰岩、大理石)黄金象牙像(Chryselephantinos), Terracotta.
- 4) 特質——人間的(多神教、神も人間的)、自由(神宮、儀軌等の制肘なし)、創造的(出発は Orient、特に Egypt の影響然し直ちに独自に展開)、理想的写実主義(自然の理法に基づく自然の ideal case の写実的表現)
- 5) Motive——人体美(裸形)、動勢 movement、衣文 Draperie

附. 美術家の位置

副 期

- 1) 上 代 Archaic periode
V.I^c—ca 470 (Kimono の時代まで)

2) 古典期 *Classic periode*

a) ca. 500 — ca. 400 (*Deleponneso* 戦役終結まで)

b) ca. 400 — ca. 325 (*Alexandros* 大王まで)

3) 末期 *Hellenistic periode*

ca. 325 — 146 a. chr (*Roma* の征覇まで)

I 上代 *Archaic periode*

Monumental な彫刻 (等身以上の彫像) は V. 11^o 中に始まる。
Egypt に学んだ直立不動の像から人体の自然の如実な表現に発展する時期。

- 1) *Xoanon* 木彫像の余韻 — *Nikandra* 奉納像, *Samos* 島の *Hera* 等, 初期の正向性 *Frontality* はやがて破られる。
- 2) *Kouros* (青年) — 所謂 *Apallon*, *Kore* (少女)
- 3) 運動表現の最初の努力 — *Delos* 島の *Nike*
- 4) 神殿, 聖庫の彫刻
- 5) *Aigina* の *Aphaia* 神殿
- 6) 通観 — *Archaic smile*, 頭部に於ける男女の区別不明瞭

II 古典期 *Classic periode*

a) 過渡期 ca. 500 — 450

- 1) 前代に見られた動勢の一種自由な表現への努力
- 2) *Standbein* と *Spielbein* の別
- 3) *Archaic smile* の消滅, 頭髪自然に近づく
- 4) 美術家の名現わる。
- 5) *Olympia* の *Zens* 神殿

b) 最盛期(1) V世紀後半

- 1) 対 *Persia* 戦争の捷利, *Perikles* 時代, *Athenai* の *Akropolis* 復興
- 2) *Doris* 精神と *Ionia* 精神との融合
- 3) 人体表現は完璧となりさらに精神性, 内面性を加える。

4) 実相をその本質的な相においてとらえ, *Typms* を創る。
(*Individuell-charakteristisches* を求めない)。

- 5) 神格 *Ethos* の表現, 端正, 彫塑的。
- 6) 代表的作家 — *Myron*, *Polykleitos*, *Pheidias* etc.
- 7) *Parthenon*

c) 最盛期(2) IV世紀前半

- 1) *Deleponnesos* 戦役による世界観の変化, 神話より哲学へ
Polis より個人へ
- 2) 画家的専業より王者の専業へ (*Parthenon* → *Mausoleum*)
- 3) *Pathos* の表現 *Individuelles*, *Subjektives* の表現, 肖像彫刻
- 4) 心理的性格描写, 神像の変化
- 5) 代表的作家 — *Praxiteles*, *Shopas*, *Lysippos*.

III 末期 *Hellenistic periode*

- 1) *Hellas* の衰退, 美術の中心本土を離れ, *Asia*, *Egypt*, *Rhodos* 島に移る。
- 2) 取材の範囲拡大 — *Barbaroi*, 病者, 老衰, 畸形, 風俗像。
- 3) 神像の変化 — *Aphrodite*, *Dionysos* etc.
- 4) 技巧的には益々迫真の技を振う。解剖学的写真, *pathologisch* な表現。
- 5) *Gr.* 風美術家の四方への拡散。

(参考書)

- ・村田 潔 ; ギリシア・ローマの美術. 東京堂
- ・ローデンワルト (山田智三郎訳); ギリシア・ローマの美術. (戦時中)
- ・フルトヴェングレル
ウルリヒス (天柳訳); ギリシア・ローマの彫刻. 岩波書店

- 沢木四方吉 ; 西洋美術史講. 慶応書房(?) (戦時中)
- G. Lippold ; Die Griechische Plastik
in Handbuch der Archäologie im Rahmen des
Handbuchs der Altertums wissenschaft.
Becksche Verlag, München 1950
- G. Charbonneaux ; La sculpture grecque archaïque,
; La sculpture grecque classique 2 vols.
Dans collection d'art de Cluny.
Ed. gr Cluny Paris 1939 or 1943.
- Encyclopédie Photographique der Louvre Tome
II & III Ed. TEL Paris
- P. Lullies & M. Hirmer ; Griechische Plastik. München
1956 英訳あり
- Max Wegener ; Meisterwerke der Griechen. Basel 1955
英訳ある由。
- G. M. A. Richter ; The Sculpture and Sculptors of Greeks.
Phaidon-Press 最近版 1960 (?)
- K. Schefold ; Griechische Kunst als religiöse
Phänomen. (Rowohlts deutsche enzyklopädie)
Hamburg 1959
- 講談社, 角川書店, 平凡社, 等, 美術全集.

○オハ ギリシア人の心性

波多野 完治

ギリシア人がどういう条件にめぐまれて、あのような偉大な文化をきずき上げたかが、心理学者たちの研究の対象になった。人種の混合も好都合にはたらいたことは否めない、しかし、ギリシア神話とその後発展した哲学および科学を[√]しらべてみると、この二つは別々のものではなくて、ひとつづきの流れをなしていることがわかる。

ギリシア哲学や科学の合理性は、ギリシア神話のなかにその原型をもっているのである。神話の非合理性または混沌たるエネルギーが、合理性と幸福にむすびついた点に、ギリシア文化の開花の原因がある。アリストテレスの物理学などに、神話から科学のつくり出されるよい例をいくつかあげることができる。

○九 政治

蠟山政道

1. 政治の一般特徴

- 1) 市民意識及び市民生活の発達
- 2) 政治形態の変遷—貴族政治, 僭主政治, 民主政治
- 3) スパルタとアテネ—国家と社会の關係

2. 政治思想の発達

- 1) 政治思想の起源
- 2) 政治形態の変遷と政治思想の発展
- 3) 政治思想と倫理観念
- 4) 政治思想と政治的実践

3. プラトンの政治理論

- 1) 政治改革者及び政治哲学者としてのプラトン
- 2) プラトンの政治学方法
- 3) プラトンの『理想国』、『政治家』および『法治国』
- 4) プラトンと近代政治学説

4. アリストテレスの政治学

- 1) アリストテレスの「法」と「正義」の観念
- 2) アリストテレスと混合憲法
- 3) プラトン及びアリストテレスの教育論
- 4) アリストテレスの後世に与へたる影響

(参考書)

- 1. *Borker, Ernest ; Political Thought of Plato and Aristotle. 1906*
 ——— ; *Greek Political Theory. 1918*

- 2. 出 隆 「ギリシア哲学と政治」 (昭和17年)
- 3. 和辻哲郎 「ポリス的人間の倫理学」 (昭和23年)
- 4. 山内得立 「人間のポリス的形成」 (昭和14年)
- 5. プラトン 「国家」 (世界思想全集)
山本光雄訳
- 6. プラトン 「法治国」 (昭和5年)
鈴木明子訳
- 7. アリストテレス 「ニコマ^クス倫理学」 (世界大思想全集)
高田三郎訳
- 8. アリストテレス 「政治学」 (アリストテレス全集オ15巻)
山本光雄 河出書房版
- 9. セイバイン 「西洋政治思想史」 (岩波現代叢書, 昭和28年)
丸山真男訳
- 10. 松平芳光 「欧州政治思想史」上巻 (昭和25年)

○オ十 社会経済

蠟山政道

1. 種族社会の構造

- 1) 種族社会の構造とその特徴
- 2) ゴノス, プラトリア, ピュレ.
- 3) 種族社会の風習と法制.

2. 都市国家の形成

- 1) 種族社会より都市^{ポリス}国家へ
- 2) 都市国家の社会的基礎
- 3) 都市国家の憲法的構造

3. 古代の見解と近代の学説

- 1) ホメロス, ハロドタス, テュキュディデス, アリストテレス
- 2) 近代の諸学説
モルガン, クーランジュ, エンゲルス, ブルクハルト,
トインビー.

4. 経済生活の一般的特点

- 1) 貧困と人口問題
- 2) 農業と土地利用
- 3) 植民と戦争

5. 都市国家の経済

- 1) 奴隷制度 (職人と勞働者)
- 2) 商業と貨幣経済
- 3) 財産制度
- 4) 海外貿易

6. 経済学の発生とその特徴

- 1) プラトンおよびクセノホンの経済論, 家政術
- 2) アリストテレスの経済学説
「流通の正義」を中心として
- 3) マルクスのアリストテレス批判

(参考文献)

- 1. Morgan. L. H. *Ancient Society*. 1877
- 2. Fustel de Coulanges, *La city antique* 1864
(邦訳, 中川善之助「古代国家」(昭和2年))
- 3. Shotwell, J. T. *History of History*. 1938
- 4. ブルクハルト「ギリシア文化史」I (昭和23年)
新関良三訳
- 5. エンゲルス「家族, 私有財産及国家の起源」(岩波文庫)
- 6. Eleutheropoulos *Wirtschaft und Philosophie*.
I *Die Griechen*. 1915
- 7. U. v. Willamowitz-Moellendorf, *Staat und
Gesellschaft der Griechen. Die Kultur die Gegen-
wart Teil II Abteilung IV*, 1923
- 8. Zimmern, *The Greek Commonwealth*, Fifth
revised edition. 1931
- 9. シュンペーター「経済分析の歴史」I (昭和30年)
東畑精一訳
- 10. 福田徳三「層生経済研究」(オ1章 アリストテレスの流通の正義)
(昭和5年)

○オ十一 科学と技術

菅井 準一

1. 生活技術から自然知の蓄積へ
— 古代ギリシア以前 —
2. 古代ギリシア人の自然観
— おもにソクラテス以前の自然[△]学者たちと
アリステレスについて —
3. アレクサンドレイア期の科学と技術
— とくにプトレマイオスとアルキメデスについて —
4. 古代ローマ人の自然観
— ルクレティウスを中心として —

(参考文献)

1. Charles Singer; *A Short History of Scientific Ideas* (1959), Oxfordarendon Press.
2. A. J. Störig, *Kleine Weltgeschichte der Wissenschaft* (1959), W. Kohlhammer Verlag. [菅井・長野・佐藤共訳, 西洋科学史, 上, 中, 下, 東京図書, とくに上巻]
3. B. Farrington, *Greek Science* (1953), Penguin Books [出 隆訳, ギリシア人の科学, 上, 下, 岩波新書]
4. E. Schrödinger, *Nature and the Greeks* (1954), Cambridge Univ. Press.
5. H. Diels, *Antike Technik*, 7. Aufl. (1924), Teubner [平田寛訳, 古代の技術, 創元社]
6. J. L. Heiberg, *Naturwissenschaften, Mathematik und Medizin im Klassischen Altertum*, 2 Aufl (1920), Teubner [平田寛訳, 古代の科学, 創元社]
7. ルクレティウス, 物の本質について, 樋口勝彦訳, 岩波文庫.

○オ十二 数学

守屋 美賀雄

1. ギリシア数学の近世数学に及ぼした影響, ギリシア哲学と数学との関連を, ユークリッドの原論を中心として述べる.
2. アルキメデスの求積法の特異性と, 後世の積分法との関連を述べる.

(参考文献)

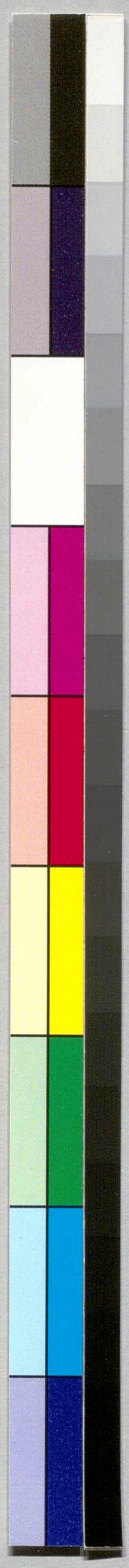
T. L. Heath, *The thirteen books of Euclid's Elements*,
 " , *The works of Archimedes with the method of Archimedes*.
 D. Hilbert, *Grundlagen der Geometrie*

年 紀	ギリシア	オリエント	ヨーロッパ(ギリシア以外)
五千年紀		五千年紀末、エジプトに新石器文化発生	
四千年紀	四千年紀後半 クレタ島に新石器文化発生	4000頃 シメール人のメソポタミア移住	
三千年紀	3000頃 クレタ島に金石併用文化発生 初期ミノア時代その末頃から青銅器時代、 クレタとエジプトの貿易	2880頃 エジプトに統一王国発生 2640頃～ 2130頃 エジプトの古王国 2500頃 ウルネ1王朝成立 2400頃 カッカドのサルゴン1世	三千年紀中頃 西ヨーロッパに新石器文化発生。
	2300頃 クレタ島に象形文字発生 2200頃～ 1600頃 クレタ島に中期ミノア時代		
二千年紀	2000頃 ギリシア人のギリシア東住開始	1955～13 (1728～1686) バビロンネ1王朝のハムラビ王	2000頃～1000頃 ヨーロッパの大部分で青銅器時代
	1600頃～ 1100頃 1600頃～ 1400頃 1400頃 クレタ島の後期ミノア時代その前半はクノッソス王朝の全盛期 前期ミケーネ文化 アケアー人の侵入によるクレタネ2王政滅失。	1570頃～1085頃 エジプトの新王国(帝国時代, 18, 19, 20王朝) 1531 ニア征服 1520頃～ 1163 カッシイト人のバビロン支配	1600頃～1000頃 イタリアの青銅器時代

年 紀	ギリシア	オリエント	ヨーロッパ(ギリシア以外)
十世紀	1400頃～ 1100頃 後期ミケーネ文化 1784 トロイオア市滅亡(神話のトロイ戦争) 17～9世紀 ドリス人のギリシア侵入 10世紀 ギリシアの鉄器時代開始、ギリシア人の小アジア・エーゲ海諸島移住開始	15世紀 ハッチ新国王の成立 1230 エジプト王メレンプターガリア人と「海の民」の攻撃を受ける 13世紀末 フリギヤ人の没跡 1190頃 ハッチ王国滅亡 973～933 フロモン王 938 イスラエル人の王国の分裂	13世紀(おそくともこのころまでに)イタリア人のイタリア侵入。民族大移動開始。 10～6世紀 ハールシュタット時代(中、西の前期鉄器時代) 10世紀 エトルリア人のイタリア半島移住。
九世紀	9又は8世紀 アテネのポリス成立 9～7世紀 ギリシア諸市における貴族政成立	814 カルタゴの建設	
八世紀	800頃 いわゆるホメーロスの詩の原型が成立 776 スパルタ人のラコニア征服完了 オリンピア競技勝利者の表のはじまり(記録に残る最古のオリンピア競技) 8世紀中頃～6世紀中頃 ギリシア人の地中海・黒海沿岸植民 754/54 スパルタのエフォーロス表のはじまり。	8世紀中頃～ 7世紀中頃 722 アッシリア帝国の全盛 イスラエル王国がアッシリアに滅ぼされる。	
七世紀	700頃 ハシオドス 683/2 アテネのアルゴン表のはじまり(王朝廃止) 7世紀中頃 オ2次メッセニア戦争(スパルタ人がメッセニア人の独立運動を抑圧)		

7世紀後半 6世紀	ギリシア諸市における僭主政 キロンがアテネの僭主たりんとして失政 ドラコンの立法 スパルタ人が国制の軍事時再編をおこなう（いわゆるリュクルゴスの改革）	625 卡尔デア（新バビロニア）王国 建設 612 アッシリアの滅亡	7世紀頃 ローマの衰 没（Vandalによる） 753
594/3 585	ソロンの改革 タレスが日食を予言	586 エド王国がカルデアに滅ぼさる	
561 550 頃	ピロストラトスが僭主となる（～527） スパルタ人がペロポネソス同盟を結成。	555頃 シヤカ生れる（～483頃） 555頃 孔子生れる（～479頃） 546 リジア王国がペルシアに滅ぼさ れる。 539 キュロス王のバビロン占領 538 エドヤ人の帰国 529～522 カンビゼス王 525 ペルシアがエジプト征服 521～486 ダリウス1世	
514 510 508/7 6世紀末～5世紀初	ピッパルゴス暗殺 ヒッピアス没後、アテネ僭主政倒る。 クリステネスの民主政建設、オストラシズム制定 ピタゴラス、ヘラクレイトス		6世紀末 ローマ共和 政の成立（伝承510）
500～493 493/2 490 487/6 482/1	イオニア植民地の独立反乱。 テミстокレスがアルゴンをこなし、海軍計画を始 める。 マラトンの戦 アテネのアルゴン艦隊が引制となる アテネ艦隊の建設	492 ペルシアの将マルドニオスの トロキア遠征 490 ダタイス、アルタフェルネスの 遠征 486～465 ペルシア王クセルクス	

480	クセルクセスのギリシア遠征（アルテミシオン、 デルモピレー、サラミスの戦）	480頃 ヒラメの戦でミトラクサがカル ダゴに勝つ 450 十二表法の制定	
479	プラテーエーの戦、ミカレの海戦。		
477	デロス同盟の結成		
472	アイスキュロスの「ペルシア人」		
470	テミстокレスがオストラシズムで追放される		
464	メッセニア人の反乱。		
462	エフィアルテスかアレオパゴス会議を無力化す。		
461	キモンがオストラシズムにあう。エフィアルテス の暗殺。パトリクレスがアテネの指導権をにぎる。		
454	デロス同盟の金庫がアテネに移される。		
453 頃	キモンの帰国		
449/8	ギリシアとペルシアの協定が成立（カリアスの和）		
447	ペルシア戦争の終結		
446	パルテノン起工		
446	アテネとスパルタの30年平和成立		
433	アテネがゴルキラと同盟してコリントを破る。		
431～404	ペロポネソス戦争		
430	アテネにペラスト発生		
429	パトリクレスの死		
421	ニキアスの平和（アテネ、スパルタ間の50年平和）		
415～13	アテネ軍のミナリア遠征		
412	スパルタがペルシアと同盟する。		
406	エウリピデス、ソフォクレスの死。		
404	アテネの降伏		
404～3	アテネにおける30人僭主支配		
403	アテネ民主政の復活		



399	ソクラテス (496~) の死刑		
386	小アジアのギリシア植民市がパルシアに屈服 (アンタルキダスの和)		
380	イソクラテスの「パネギュリコス」		
371	レウクトラの戦でテーベがスパルタに勝つ。 (スパルタが覇権を失う)		
362	マンティネアの戦, テーベのエパミノンドス戦死。		
359~336	マケドニア王フィリッパ2世の治世。		
347	プラトン (427~) の死		
346	イソクラテスの「フィリッポス」		
	ケーロネアの戦でマケドニアがギリシア諸市連合軍を撃破		
336	アレクサンドル大王の即位		
334	アレクサンドルのアジア遠征開始。ドラニコスの戦		
333	イソッスの戦		
331	アレクサンドリア市建設。アルベラ (ガウガメラ) の戦		
330	ダリウス3世暗殺。パルシア滅亡		
327~25	アレクサンドルのインド遠征		
324	アレクサンドルがスーサに帰る		
323	アレクサンドルの死		
322	アリストテレス (384~) の死		
301	イソッスの戦 (ヘレニズム諸国の分野ほど決定)	305~64	セレウコス王朝
		305~30	プトレマイオス王朝
290	アエトリア同盟 (中部ギリシア諸市の軍事連邦) 結成。	247	パルチア王国の興設
280	アカイア同盟 (北部パロポネソス諸市の連邦) 結成。	230	パルチア王国の抬頭
215~205	第1次マケドニア戦争。		

四

世

紀

三

世

紀

200~197	第2次マケドニア戦争		
171~168	第3次マケドニア戦争		
168	マケドニア滅亡		
148	マケドニアがローマの属州となる。		
86	アテネがローマの将スラに征服される	63	ポンパウスがイエリサレムを占領
27	ギリシアがローマの属州アカイアとなる。	30	オクタヴィアヌスのアレクサン ドリア占領
120頃	ブルタルコス (40頃~) の死		
150頃	天文学者、地理学者プトレマイオスの活動		
330	コンスタンティヌス帝がコンスタンティノーブルに都を移す。		
393	古代最後のオリンピア競技		
395	ローマ帝国の東西分裂		
529	ユスティニアヌス帝がアテネの新プラトン派の学童を閉鎖する。		
			313 キリスト教公認
			361~363 ローマ皇帝エリリアヌスの治世
			375 西ゴート族のドナウ河南移住 (民族大移動の開始)
			392 テオドシウス帝がキリスト教を国教とする。
			394 テオドシウス帝が異教を禁止する。

